



● 城東地区 ●
1905 世帯
男 1792 人
女 1912 人
合計 3704 人
H 30.1.1 現在

城東地区市政懇談会 城東公民館で3年ぶりに開催!

11月27日に城東公民館において市政懇談会が開催されました。

以前は「市政まちかどトーク」として行っていたもので、約70名の住民と、菅谷市長及び市幹部職員が出席しました。



最初に、市長より「このまちで生きていく」と思えるための「松本のまちづくり」に関する取組み等の報告がありました。

その後、3つの問題について市と意見交換をしました。



高齢者及び障がい者等への地域の取り組み

質問1 地域包括ケアシステムの構築に向け、ボランティアの組織化等に参考となる事例を紹介してもらいたい。

回答 まずは、各地区で興味のあることから始めるのが良いと思う。(入山辺地区)

白板地区の事例を紹介)

重複的な見守り体制のため、市と郵便局、ガス会社等の民間企業が協定を結び、異変があった時は、市への連絡体制を構築できないか。

回答 現在、松本市では、民間事業者と協定を締結し、見守り活動に取り組んでいる。一例としては、高齢者等を対象とした訪問給食サービスで弁当を届ける際に、呼んでも出てこない場合等に市へ連絡してもらっている。今後、新たな協力事業者の拡大を検討したい。

質問3 熊本地震の際、当市職員を被災地に派遣したが、その内容と市に必要な体制及び市民が地震に対して準備しておかなければならない事項を教えてください。

回答 熊本市では、庁舎や職員の対応、物資の集積と配送、指定避難所の運営、車中泊避難の状況等について視察した。

家庭では、建物の耐震化や家具の固定化、1週間程度の水や食糧及び携帯トイレ等の備蓄が重要。また町会での安否確認や防災訓練も重要。

記録的大雨特別警報時等における松本市の危機管理体制

質問1 近年、各地で大雨が多発している。河川氾濫シミュレーションや土砂災害による家屋倒壊危険ゾーンを公表してほしい。

回答 河川氾濫に伴う浸水想定は「松本市洪水ハザードマップ」を作成した。河川氾濫シミュレーションについては、松本市公式ホームページで公表している。

質問2 防災行政無線は聞き取りにくく、携帯電話を持っていない高齢者などは、特に夜間の情報収集が難しい。どのような伝達手段を考えているか。

回答 避難情報を発令する時は、始めに大きな音でサイレンを流すので、窓を開けて、聞き耳を立てたり、早めにテレビやラジオをつけてほしい。また、放送内容が確認できるテレホンサービス(36・8686)がある。

質問3 改訂した「松本市避難勧告等の判断・伝達基準マニュアル」では、避難情報を出す際には避難場所を定めて出すと聞いた。どのように

なっているか。

回答 女鳥羽川の東側は城東公民館、西側は安原地区公民館を想定。浸水被害に関して、ご自宅周辺の状況を把握しておくとともに、危険な時は高い場所へ逃げてほしい。



空き家・廃屋対策

質問1 放置され管理不全な状態に陥っている廃屋や空地がある。空き家は、今後ますます増えていくので、前例にこだわらず踏み込んだ解決をしていただきたい。

回答 市は、10月1日に建設部に担当職員を配置し、都市政策課に空き家対策の総合相談窓口を設置した。

倒壊等の怖れのある空き家の判断については、国が示したガイドラインを参考に適切な基準をつくる予定。(小島)

留学生と行く交流バスハイク
〜城東公民館主催〜

11月3日、快晴。信大留学生と善光寺へ出発。参加者は留学生11名を含む計22名。国籍はポーランド、アメリカ、ロシア、ドイツ、タイ、台湾、中国、マレーシアと多彩。私の隣に座ったのはアメリカ人女性リード・ジェナさん（カリフォルニア大チコ校）で「おはようございます」と挨拶をいただいた。全員自己紹介。参加者から留学生に、なぜ信大を選んだか質問をする。と、松本は小都市ですが山に囲まれ自然が豊かで環境に恵まれていることや、信大が素晴らしい大学だとすすめられたからとの答えが多かった。



善光寺本堂前にて

善光寺参り
ガイドさんが笑顔でお迎え。私達は最近修復が終った「経

蔵」を見ながら境内へ。多くの参拝者がいて、七五三で着飾った子供たちがいる中、国宝の本堂の前に立った。創建642年、現在の本堂は、宝永4年（1707年）に再建された。間口24m、高さ26m、奥行54mという壮大なお寺に留学生は感心した様子。「おびんずる様」をなでて薄暗い内陣へ進み御本尊に焼香。いよいよ名代の「お戒壇めぐり」となった。階段をおりると真暗闇、恐怖が襲う。回廊の中程にある秘仏の御本尊につながっている「極楽の錠前」にたどりつく間、留学生は声をかけ合って恐る恐る進む。ようやく錠前にさわり安堵の声。明るい出口へ出ると、この体験で御利益があったよう留学生と親密になった気持がした。

千曲市屋代にあり、開館24年ということですが、中信地方の人達にはあまりなじみのない施設である。催しのテーマは「進化する縄文土器」流れるもようと区画もよう」で、学芸員の方に案内され、長野県で出土した土器を年代順に見学、時代差、地域差の違いが参考になった。本物の縄文土器に触れるコーナーがあり、初体験となった。帰途のバスの中で、留学生の「大変楽しい一日でした」との感想を聞きながら、私にとっても、若い留学生と交流できて有意義な一日だった。（藤本）



宿坊での昼食

昼食は「淵之坊」で精進料

理をいただき、肉、魚介を使わない日本の伝統的な食文化を味わった。

災害に強い

まちづくりを目指して

〜静岡県地震防災センター〜

町内公民館長会では、11月12・13日に、静岡県内の視察研修を行いました。

地震に関する知識と技術の普及向上、防災意識の高揚を図るとともに、自主防災組織の活性化を図ることを目的として開館された施設です。

防災ビデオ
地震発生時の対処方法や日頃の備え等について学習しました。



防災ビデオ

突然、地震が起きたら、まずわが身の安全確保が最優先。そして、地震が起きる前の備えが大切です。普段から家族でもしもの時はどうするか話し合う等等。

また、日頃のご近所づきあいを通して、地域の防災活動自主防災組織の大切さについて学びました。

「地震サブトン」



地震体験コーナー
地震サブトン

日本各地で発生した地震の規模、揺れた時間をリアルに体験できる一人乗りの体験装置です。

突然、激しく揺さぶられ、椅子の手すりにつかまっただけで精一杯でした。

「展示コーナー」

家屋の耐震補強工法や家具の転倒防止、備蓄品・非常持出品を紹介しています。

家具の転倒防止、備蓄品等の準備が重要だと再認識しました。



家屋等の耐震補強

今回、視察した防災センターは、東海地震・津波に對しての備えについて多くの展示・学習パネルがあります。松本市では、津波災害はありますが「災害に備える」という点で、多くの共通の学びがありました。（加藤）